

主要事業評価シート(第2次実施計画/R1・2・3年度)

① 基本事項	計画コード	事業名		部名	産業環境部
	19016	団体営ため池等整備事業		課名	農林振興課 農林施設G
	施策の大綱	01:快適さを支える生活基盤の向上		財務科目	01:一般会計
	基本施策	06:安全・安心なまちづくりの推進			06:農林水産業費
	施策の方向	04:災害に強いまちづくりの推進			01:農林水産業費
戦略プロジェクト	02:「安全力ジャンプアップ」プロジェクト		05:農地費		
事業予定期間	R 1 ~ R 3 年度	主な根拠法令要綱等 農村地域防災減災事業実施要領、農業水路等長寿命化・防災減災事業実施要領			

② 目的・概要	対象	ため池の受益者、ため池直下の住民
	目的	農業水利施設(ため池)が地震によって破堤することにより、農地、農業用施設はもとより、地域住民の生命、財産、公共施設にも甚大な被害が発生するおそれがある。地震による被害の影響が大きい農業用ため池の耐震性を調査し、その現状を把握することを目的とする。
概要	地震等で破堤した場合、農地や農業施設はもとより、住民の生命や財産、公共施設に甚大な被害が発生する恐れがあるため池の耐震点検(地質調査と解析)を行う。	

		令和元年度	令和2年度	令和3年度	
③ 事業の計画・実績	年度計画	○ため池耐震点検 ・桑原池(中庄町) ・長田池(下庄町) ・京丸池(三寺町) ・鹿丸池(下庄町) ・美泥池(下庄町)	○ため池耐震点検 ・桑原池(中庄町) ・長田池(下庄町) ・京丸池(三寺町) ・鹿丸池(下庄町) ・美泥池(下庄町) ・北山池(下庄町) ※一部繰越明許費(24,000千円)	○ため池耐震点検 ・新池(関町木崎) ・間瀬池(中庄町) ・北谷池(川合町) ・から池(布気町) ・太岡寺池(太岡寺町) ・長田池(布気町) ・城山池(関町新所) ・菅谷池(太岡寺町) ・重大池(両尾町) ・入谷池(辺法寺町) ・上垣内池(白木町)	
	年度実績		○ため池耐震点検 ・桑原池(中庄町) ・長田池(下庄町) ・京丸池(三寺町) ・鹿丸池(下庄町) ・美泥池(下庄町) ・北山池(下庄町) ※一部繰越明許費(24,000千円)	○ため池耐震点検 ・新池・間瀬池 ・北谷池・から池 ・太岡寺池・長田池 ・菅谷池・入谷池 ・上垣内池	
事業の計画・実績	計画額	事業費	24,000千円	6,000千円	30,000千円
		国庫支出金			
		県支出金	24,000千円	6,000千円	30,000千円
		地方債			
		その他			
	予算額	事業費	0千円	0千円	0千円
		国庫支出金			
		県支出金		30,000千円	30,000千円
		地方債			
		その他			
	決算額	事業費	0千円	22千円	1千円
		国庫支出金			
		県支出金		30,000千円	30,000千円
		地方債			
		その他			
人件費	事業費	0千円	30,022千円	30,000千円	
	国庫支出金				
	県支出金		30,000千円	30,000千円	
	地方債				
	その他				
総人件費	0千円	2,352千円	3,161千円		
一般職員	0千円	2,352千円	3,161千円		
所要人員		0.30	0.40		
会計年度任用職員等	0千円	0千円	0千円		
総コスト(①+②)	0千円	32,374千円	33,161千円		
受益者負担率	0.0%	0.0%	0.0%		

			令和元年度	令和2年度	令和3年度	
④ 指標	①	名称	ため池耐震点検調査箇所数		6	11
		活動		計画値		
				実績値		6
			単位		箇所	箇所
	②	名称				
				計画値		
				実績値		
			単位			
	③	名称				
			計画値			
			実績値			
		単位				

⑤ 事業の改善	前回評価	【前回評価の対応方針の概要を記入】 防災対策実施の為に耐震等各種調査の結果や浸水想定区域図とハザードマップの作成で得られた被害想定規模や対象となる施設の確認と、耐震等各種調査の結果をもとに防災対策工事等実施が必要なため池を選定し、優先順位等を反映した計画書を作成する必要がある。
	改善行動	【前回評価の対応方針を踏まえ、どのような措置を講じたか】 耐震調査の結果、防災対策工事等が必要なため池は判定できたが、令和2年10月制定の特措法有効期間内に劣化状況評価及び豪雨耐性評価を行った上で防災工事に着手する必要性が生じた。今後、耐震等各種調査の結果をもとに防災対策工事等推進計画書を作成する。

		評価	(判定)
⑥ 事業の評価	活動	【計画どおりに実施できたか】 当初計画した6箇所の耐震点検を発注したところ入札差金が発生した為、事業進捗を回り、11箇所に計画変更を行いました。その後、実施したボーリングの結果、各ため池の地層や土質が当初の想定と異なり、ボーリングの深さと現地試験の変更による増額となったことから、計画変更後に予定した11箇所の内、9箇所の調査が完了となった。	A 計画どおり実施できた
	成果	【成果は順調に上がったか】 本業務の結果により、2池の耐震性に問題がないことと、7池の耐震性不足が判明したことで防災対策工事等推進計画書の基礎となるデータが得られた。また、耐震調査を実施したことで各ため池の評価を作成できた。	A 十分な成果を得た

⑦ 今後の対応方針	課題	【課題は何か】 過去の調査により16池の耐震性の確認はできたが、未調査の耐震性調査と劣化状況評価及び豪雨耐性評価を計画的に行う必要がある。	次期実施計画への方向性 <input type="checkbox"/> 継続（拡大） <input checked="" type="checkbox"/> 継続（現状維持） <input type="checkbox"/> 継続（縮小） <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> その他 【その他の場合、その内容を記載】
	対応	【課題に対し、どのように対応するか】 計画的に各種調査を行い、調査結果と浸水想定区域等を勘案し、防災対策が必要なため池の防災工事等推進計画を策定する必要がある。	
	効果	【対応することで、どのような効果が期待できるか】 策定した防災工事等推進計画を遂行することで、安全・安心なまちづくりに寄与する。	
対応時期		令和6年度	

【1次評価者】	産業環境部 農林振興課 農林施設グループリーダー 近藤 美文
【最終評価者】	産業環境部 農林振興課長 水越 洋光

(参考:前期基本計画期間(H29-R3)における評価履歴)

		H29	H30	R1	R2	R3
判定	活動	/	/	/	A	A
	成果	/	/	/	A	A

■令和3年度予算額(事業費)の内訳

予算額(事業費)		30,001 千円
内訳	令和2年度からの繰越額	千円
	令和3年度の最終予算額	60,001 千円
	令和4年度への繰越額	▲30,000 千円